

# やすらぎ

平成 23 年 7 月 1 日〔第 147 号〕

発行 御所 モラロジー 事務所  
 発行責任者 米田徳七郎  
 〒639-2241 奈良県御所市茅原118-1  
 TEL/FAX 0745-64-3030  
 E.mail gose-mc@m5.kcn.ne.jp

## 本部伝統の日「感謝の集い」に参加して



6月4日(日)晴天に恵まれ「感謝の集い」参加の為、娘に付き添われて9時頃家を出ました。

道中、雲の上にひょっこり顔を出した冠雪した富士山を眺め心洗われて、3時前モラロジー研究所に着きました。

はじめに麗澤館へご挨拶にまいりました。入口には記帳所があり前日なので人はまばらでした。次に学祖廣池千九郎博士の墓参、そして霊堂の中へ。一年ぶりに主人に逢えました。諸先輩の皆様にもご挨拶が出来ました。

久し振りに踏みしめる緑に包まれた聖地、何とも言えない、どう表現すれば良いのか不思議な安心感に包まれ、少しの間ぼんやりと木陰で人の行き来を見ながらセンターの空気を体いっぱい吸いこんで午後7時前柏駅前ホテルに戻り足を休めることにしました。

「感謝の集い」当日朝も快晴です。昨日は少し歩きすぎたので足のご機嫌を心配しましたが大丈夫で9時頃センターに到着し御所事務所からご参加の細川参与様御夫妻、南様にお会いしてから芸術展を見学したり物

産展を見て10時半過ぎ会場へ向かいました。会場は中も外もいっぱいです。

何時も元気な理事長ご夫妻、国会議員の方、外国のモラロジアンの方々も大勢参加して11時開会されました。

最初に東日本大震災被災者の方々への黙祷、国家斉唱、諸伝統への黙祷が行われました。理事長からは諸伝統に対して感謝と報恩を誓いモラロジアンとして最高の評価を勝ちとり、公益財団法人として後継者の育成をし、高齢化社会における最高道德の実行を勇気をもってやってほしいと何時ものようにモラロジーに対するお考えを熱く話されました。

最後に「ひびけ世界のあら磯に」を大合唱して12時30分閉会されました。

センターの広場で音楽を聞きながら心づくしのお弁当をいただき少し早い目に帰路に着きました。

帰りに“来年も又お父さんに逢いに来られるかナー”とつぶやいた私に「車椅子を押してやるよ。」と言ってくれる娘、来年も「感謝の集い」に参加出来るように体を大切に感謝と報恩の日々を送らなければと心に誓いました。

今日のこの時を諸伝統に感謝し、家族に感謝し、付き添ってくれた娘にもこころよく出して下さった婚家の方々にも感謝でいっぱいです。

そして私の足にも。来年もよろしく  
 ネ……と。 富士秀子

## 「感謝の集い」瑞浪会場に参加して

6月12日午前6時、川崎徹さんのワゴン車に参加者6名が同乗させて頂き一路瑞浪へ。無事9時過ぎに到着、早速全員揃って麗澤館へご挨拶に参りました。この度は森村稔、正子御夫妻も参加され正子夫人は、初めてで目新しいことばかり、色々と質問しながら見学されていました。時間前には会場へ、閉会まで熱心にお話を聞き、昼食後其々園内を散策し物産展でお買い物などして楽しみ、お陰で一行は意義深く楽しい一日を過ごさせて頂きました。往復の運転は川崎さんお疲れ様でした有り難うございました。

10時30分開会、国歌斉唱に続いて麗澤瑞浪中高等学校生徒会長の滝本有理さんの力強い誓いの詞。順に参列者代表東海ブロック飯南モ

物資はその都度被災者にお届けしていますと告げ、ボランティアの方々へも労いの言葉をもって、長引く復興に引き続きご協力を呼びかけられました。

天皇陛下ご夫妻が避難所を訪れ被災者に声を掛けられる御態度は、被災者は勿論全国民に癒しを与えてくれました。天照大神様をご先祖にその御心を1500年以上も継承し守り続けているご皇室の存在は正に国民、人類の象徴でありましょと述べ伝統尊重の大切さを話されました。

戦後我が国は物作りに成功したが人づくりに失敗、戦後の教育を反省。特に中学校では正しい歴史感をもつ教科書が必要であり教育正常化を計らねばならない。国家の建設は教育にあり教育者の責任は大きいといえる。

研究所は85周年を迎え公益財団法人として更なる活動を。第一に学術研究団体として総合人間学を広池千九郎の生き方に学ぶ。

第2に社会教育団体として、家庭、地域、学校、企業、教育者に品性資本、道経一体思想を学んで戴、少子高齢化の今こそ新興の21世紀の新しいかたちを、皆さんと一緒に考え勇気をもって最高道徳を実践し、真の慈悲心を発揮して知徳一体の教育を勧めてまいりましょ「伝統の日」は、人類の安心、平和、幸福実現という、モラロジー創建の目的を再確認し、皆様と

平成二十三年六月十二日 麗澤瑞浪中学・高等学校 生徒会長 滝本 有理	— 生命の根源である天地自然の大きな御恵に感謝します。
	— 利己心や高慢心に打ち克ち、品性の向上に努めます。
	— 家の伝統・の伝統・精神伝統に感謝し報 恩の実行に努めます。
	— 思いやりの心を深め、進んで義務と責任を果たします。
	— 奉仕の精神に徹し、母校の発展と世の人々の幸福の増進に尽くします。

瑞浪会場誓いのことば

ラロジー事務所青年部佐々木藍子さんが感謝と誓いを述べられました。

次に広池幹堂理事長が登壇され感謝の集いがこの様に盛大に開催できることは諸伝統をはじめ先人先輩全国のモラロジアン、ご協力者皆様方のお陰であると丁寧に謝意を述べられた後、東日本大震災は甚大な被害をもたらした被災地の皆様に謹んでお見舞いと哀悼の意を表されモラロジアンの皆様からの義援金や救援



共にその実現に向けて力を尽くすことを決意する日です。 (廣池理事長挨拶概略)

くらもと



## 歩こう会の伊勢

### 「お陰参り」(1)

歩くことは実にすばらしく良い。新緑の5月22日、朝6時さわやかな空気の中を6名のメンバーが伊勢神宮街道へつたうべく、「小野の榛原」へと出発して行った。目にあおぐ本馬山の樹々の緑は私たちの気持ちをやすらぎの世界へと導いてくれる。高取川の土手の匂いが、早朝の気と体に生き生きとした平衡感覚をとりもどしてくれる。途中での一步一步が、初瀬街道で大雨に出会い、榛原へ行きつくことなく長谷寺のお参りで終止符をうつはめとなってしまう。けれど、それでもそれぞれの万歩計は四万歩をクリアの満足感で一致した実感を知りえることとなる。



おかしな初めての横道が忘却の彼方へと追いやってしまっていた。千塚の北の斜面で、時の流れからよみがえってくる。今井町の迷路から古来の推古天皇21年(613)、郷里の葛城池と共に造られた難波から堺に、そして直角に大和、飛鳥に至る最古の国道「横大路」が、西から東へと走る小網町の本通りへと出た。その道の名を竹内街道と、東へ初瀬街道と呼び一直線と向

かう裏道に八木、札の辻がある。

中里介山著『大菩薩峠』には、主人公机竜之介は西から来て、この札の辻の前に立った。「大和国八木の宿。東は桜井より初瀬にいたる街道、南は岡寺、高取、吉野等への道すじ、西は高田より竹の内、当麻への街道、北は田原本より奈良郡山へ四方十字の要路で、町の真中に札の辻がある。」と書き記されている。

しかるに、机竜之助が去ったのちの「慶応3年(1867)8月、尾張・三河・遠江国などに始まり、やがて東海道筋や近畿地方各地にひろまった民衆の大騒動「ええじゃないか、ええじゃないか」と唄いながら踊り狂う別格 おかげまいり」の行列が横大路と平城宮朱雀門からの下ツ道の合流する交差点「札の辻」へと異様な装束の旅人が大挙踊りながら押し寄せてくる。

私たち一行はこの地点でお腹をすかし、疲れた格好で喫茶店を探すが見つからず、結局耳成山を通過した後で見つかるまで頑張った。

グループはこれまでに丹念に調べておられた米田さんの資料でほとんど一列となり進んで来たが、めずらしく74歳の奇妙な老人だけが前方を1人先行していた。

中ツ道の三輪神社(大神神社でない)を交差して桜井市に入る。桜井本町通りが六丁目まで長々と続き、忍坂・舒明天皇陵参道碑の右塔から旧街道へと入る。雨が小降りからだんだんその量を増し、結局黒崎で大雨と風によって民家の軒先でたたずんで時を過ごす。

黒崎はその昔、「黒崎といえども白き肌と肌、合わせて味(うま)い女夫(めおと)饅頭」と狂歌が看板に書いてあった。有名な饅頭屋は、今はない。さてと、軒先で佇みながら長旅のおかげ参りを紐解くことにした。

「おかげ参り」のおかげは、おかげさまで元気に暮らさせて頂いています、と云った神への感謝の気持ちからであるが、「抜(ぬけ)参り」とも云われ、近世に周期的に繰返された伊勢神宮への集団的な巡礼運動で、一般的に自由な旅

を許さなかった封建時代のはげぐちなる大移動であった。

大阪や京都から5日、江戸から15日もかかる大旅行であった。

その初見は寛永15年(1638)そして慶安、宝永、明和、文政と繰り返され、文政13年(1830)には最高潮となり、3月から9月までに参拝した数は450万人、当時日本の人口の5人に1人が伊勢詣をしたことになる。

私たちの「おかげ参り」も当時の模様を写し



個々の特性を充分発揮させるオリジナルな旅にと、今朝家を出る時「おかげでさ、するりとな、ぬけたのさ」と、しるしばんてんの背中に墨書きしてやって来たが、誰にも注目されず残念だと考えていると、後方から5人グループが小雨の中へと、姿を表わしてやって来た。

地道を抜け、本通りへと出て間もなくドシャブリとなり、長谷寺の参道入り口の暖簾がある気のむかない食堂へと飛び込んで入ったのは、当然とした結果であった。

この長谷寺で上田・米田の両カップルと杉村洋さんたちは個々に楽しんでいた。

終わりに米田さんが化粧坂へ行こうと山の奥地へと登って行った。

帰りの電車の中で忘却の闇の中から、その老人は岸本先輩から昔、「けはいざか」の話をしてくれていたことを1人回顧にはげんでいた。

松村豊啓

## 運営委員会報告

平成23年6月22日午後8時より定例の運営委員会が事務所で開催され、委員11人が出席しました。

### 《報告事項》

1. 第48回教育者研究会、奈良県南会場(畿央大学、平成23年7月31日(日)9:30~16:00)、奈良県北会場(奈良教育大学、平成23年8月06日(土)9:30~16:00)の2会場で行われます。
2. 社会貢献委員会で現在行なっているアルミ缶回収を今後どのように社会貢献につなげていけばいいのか検討しましたが、結論ができません。継続審議をしていきますが、皆様のよきアドバイスをお待ちしています。
3. 青年クラブは現在アルミ缶のプルタブを集めているが、今後社会貢献と一緒に活動していきたい。大宇陀事務所の「元気プロジェクト」への参加を予定。8月、キャンプ場でバーベキューを企画したいと検討中です。

### 《審議事項》

1. 本年も引き続き80歳以上の方に、紅白まんじゅうとお菓子(合計2000円位)の誕生日プレゼントを届ける。今年度既に誕生日が過ぎてしまった方には、お詫びし後日持参する。
2. 第15回生涯学習セミナー(10月20日、21日)の実行委員長は代表、副代表で選任する。会場はアザレアホールとします。7月31日(日)近畿ブロックセミナー打ち合わせ会が午後1時より開催されます。チラシ1,000枚、ポスター大10枚、小20枚、昨年通り申し込みます。
3. 本部主催維持員研修会は平成24年2月12日(日)午後1:30~4:00。50分講義2コマを予定しています。
4. 夜間事務所の駐車場が暗いので、モラロジー事務所の看板と事務所前の蛍光灯はタイマーで点灯するように、投光器、防犯灯は事務所ポスト前の壁にスイッチを付ける。
5. 平成23年3月31日付けで、松岡秀尚さん、幸田誠寛さんの当事務所会員退会届が提出されました。